

ぎふグローバル ニュース「Co-Work」 30 号 H27/7/10

特進 2 年

来年 2 月に予定されているフィリピンレイテ島での Co-Work に向け、夏休み中にグループごとに活動の方向性を具体的にしていって作業を進めていきます。日本で自分たちができる作業と、レイテ校の生徒たちにも手伝ってもらいレイテ島での状況を調べてもらうなど協力しながら、ここから Co-Work が始まっていきます。

レイテ校の生徒に投げる質問や依頼事項をまとめて、2 年生は来週 13 日(月)、1 年生は 14 日(火)にテレビ会議にて本年度 1 回目の交流をする予定です。

テーマ	A	防災マップ作り
	B	災害中の困った事
	C	災害後の対策について
夏季休業中に取り組む内容	A	自宅周辺および学校周辺の環境(危険度)調査し、避難路と避難場所を確認しながら地域の防災マップを作成する。
	B	災害中やるべきこと。現状で行われている対策調べ。
	C	高齢者、文盲、外国人への対応策(標識等も含め)。マイノリティへの対応。東日本大震災時などの避難所の対応や運営について調査 ← 避難所運営ゲーム(HUG)講座への参加
事前にTV会議でレイテ校の生徒に聞きたい事	A	避難マップはあるか。防災マップはあるか。避難訓練の状況。TV やラジオで避難勧告が流れるか。それはどの程度のもので精度はどうなのか？被害状況はどのようにして知ることができるのか？
	B	災害中、家族との連絡は取れたのか？不安だったことは？災害のための教育・訓練、シミュレーションはやっているか。被災中に、足りないものは？ゴミ問題はどれくらいひどいか。
	C	危険個所の認定などはしているか→二次災害。避難する際の人々へ伝える方法は？標識などはあるのか？
レイテ校の生徒に調べて欲しい内容	A	レイテ校周辺の避難場所や危険区域を地図に記入して送ってほしい。学校での避難訓練の状況。避難のシステムを、行政は持っているか。人々はどう知っているか。
	B	災害時に、最も不安だったことをアンケート。
	C	地震と台風で共通した対策はあるか。どのような対策をしているか。行政の防災の状況。対策や啓蒙活動はしているか。学校周辺の危険個所を見つけて写真を送ってほしい。高齢者や文字の読めない人(文盲、外国人等)へはどのような対応をしているのか？

◆レイテ校来校2日目（5月26日）の模様をご紹介します。

5
月
26
日

火

9:30
～

レイテ高校の先生、生徒と共に各務原市にある岐阜県広域防災センターへ



岐阜県広域防災センターは岐阜県消防学校内にあり、防災知識の普及向上や防災用資機材の備蓄等を目的とした施設で、地震や火災の体験、消火器の操作方法などを学ぶことができます。

火災体験では、実際の火災時の煙を再現し

た迷路の中を鼻と口をハンカチなどで覆いついて出口を目指します。火災時には煙で視界がふさがれ、パニック状態になると慣れた場所でも迷ってしまっ出口にたどり着けなくなるため、壁に手をつけたまま壁伝いに歩いていくのが原則だそうです。



地震はなぜ起こるのか？津波の速さなど、地震についての講義のあとに、濃尾地震などを再現した地震体験装置で上下左右に複雑に揺れる大きな地震を体験。



その後、消火器の取り扱いを体験させていただきました。



14:30 陶芸体験

～

レイテ校生徒と先生は陶芸の絵付けに挑戦してもらいました。事前の特進 2 年生が絵付けしたカップをプレゼントし、レイテ高校の生徒さんたちには日本へのプレゼントとして描いてもらいました。



皆さん一生懸命に図案を考えてくれました。一緒に作業した生徒たちとも和気藹々として笑顔あふれる体験となりました。



14:30

～

レイテ校の皆さんを交えてテーマに沿った体験学習

A 班

土嚢づくり体験

災害前

B 班

① ツナ缶でろうそくを作る⇒ろうそくとして使った後のツナ缶を使ってサンドイッチ試食

災害中



② 空き缶で米を炊く



C 班
災害後

災害時用レトルト食品試食



続きはまた次回にご紹介します